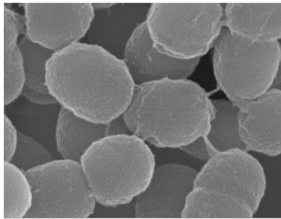


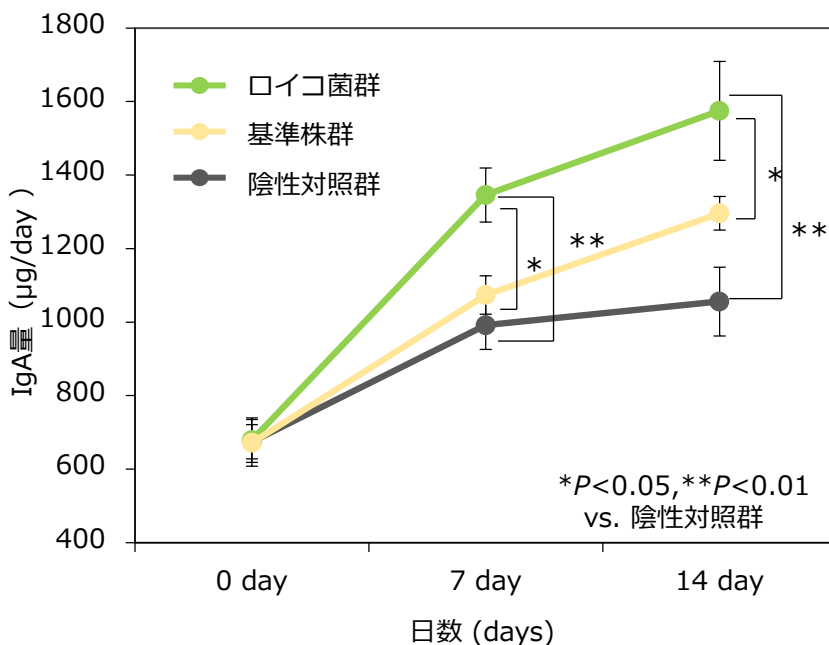
◆ ロイコ菌M048株の菌体摂取により糞便中IgA量が有意に増加

IgAはのど、鼻、腸管などの粘膜にあり、細菌などの侵入を阻止する生体防御成分です。IgAの分泌が増加すると、風邪やインフルエンザ等の感染症予防に役立つと考えられています。



エンドウマメから単離されたロイコ菌M048株 (*Leuconostoc mesenteroides* NTM048) はマウスを使った実験で、服用するとIgAの分泌を促進させることがわかりました。

ロイコ菌M048株の電子顕微鏡写真



マウスの飼育期間中、陰性対照群では糞便中IgA量に変化がなかったのに対して、ロイコ菌M048株を含む餌を摂取させると糞便中のIgA量が増加することがわかりました。また同時にロイコ菌M048株と同種の基準株*よりもその効果が高いこともわかりました。

※基準株：
L. mesenteroides JCM6124

実験内容

- マウス：6週齢のBALB/c (雄)
- 群分け：
 - ロイコ菌群 (*L. mesenteroides* NTM048の菌体を餌に0.05%含有 n=6)
 - 基準株群 (*L. mesenteroides* JCM6124の菌体を餌に0.05%含有 n=6)
 - 陰性対照群 (餌のみ n=6)
- 方法：ロイコ菌群はロイコ菌体を含む餌、陰性対照群は何も含まない餌を14日間、マウスに自由摂取させ、0、7、14日目に糞便中のIgA量を測定しました。